

顧客の声から誕生

災害用物資お預かりサービス

顧客の声から誕生 災害用物資お預かりサービス

高まつた。建物の崩壊による消失データの復旧、仮事業所での業務遂行、社員の食料確保など、震災後には業務を停止させないためにさまざまな対策を打つことになる。近年はサプライチェーン化が進み、一事業所の動きが業界全体へも影響を及ぼす。震災発生から1年が経つま、BCPを新たに検討し、企業の信頼につなげていく。

遠隔地
分散
保管
緊急集配

情報資産は、アウトソーシングで進化する。
重要データに必須の「災害対策」
必要なのは、データだけではありません。

大災害でも情報資産を守ってきたワンビシだからできる
災害用物資お預かりサービス!

- 必要な情報資産と一緒に届け
- 使用期限の管理もラクラク!
- 遠隔地保管で同時被災を回避

災害用物資とは
水、アルファ米、電池、使い捨てカイロ、
非常用トイレ、寝袋、軍手、吸水紙…

情報資産管理のリーディングカンパニー
株式会社ワンビシーカイブズ
TEL:03-5425-5400 (災害対策プロジェクト)

<http://www.wanbishi.co.jp/> ワンビシで検索

情報資産管理において最大手のワンビシーカイブズ(ワンビシ)は昨年9月に「情報資産管理に関する意識調査」を実施した。BCPを策定している企業は2008年に8.9%、11年には約2倍増の17.2%となつた。震災前からBCPを策定していた企業の7割強は見直し、または見直しを検討しているという結果が出た。

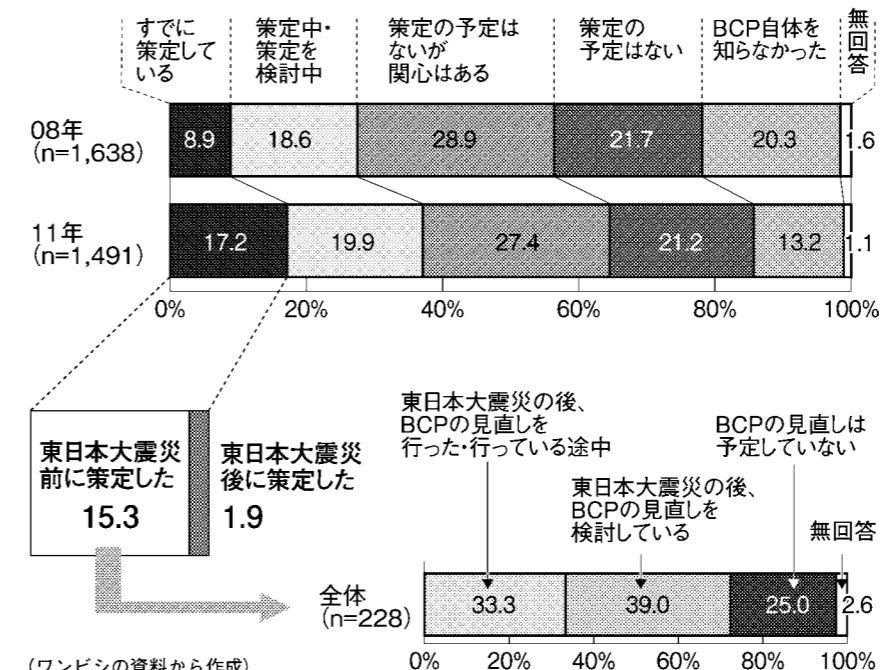
事業所とバックアップデータの保管場所は60ヶ所以上離すことが望ましいとされたが、最近は30ヶ所以上でも良いのでは、という企業も出てきていた。しかし、今回の震災では事業所と保管場所が同時に被災を受ける可能性がある。そのため、少しでも影響が及ばないよう、関東と関西といつたより距離のある場所にデータを保管したいといふニーズが増えた。

そうした声に応えるたため、ワンビシは紙文書やデジタルデータを大都市圏より離れる場所に安全に保管し、緊急時に専用車両で届けるなど、幅広い情報資産を強固に守るサービスを扱う。今回の震災でも、燃料不足の車両で顧客をまわり、通常通り業務を行い、実績とさらなる信頼を得た。

震災後、直ちに仮対策本部を設置し、安否確認や緊急連絡、被害状況の確認を行った。バックアップデータを保存した記録メディアの定期集配のため、十数時間かけて東北の顧客をまわった。その際、トラックに水や食料などの緊急物資も積み、顧客を支援した。

そのような支援を行つていく中で、顧客から緊急時には情報資産だけでなく非常用備品も運んでほしいとの声があがり、今月から「災害用物資お預かりサービス」を開始する。同サービスでは食料、医療品、寝具、自家発電などの災害用備品を事前にワンビシに預

BCPの策定状況と震災後の見直し状況



文書・データに加え食料や備品も

ける。ユーザーは全国12カ所の情報管理センター、または提携先から適

が指定した場所に同社が

文書やデータなどの情報資産とともに、保管してお預かりサービスだけの利用も可能だ。また、同社は備品の使用期限管理を行つた災害用備品を届けられる。もちろん災害用備品を届けられた災害用備品を選択。災害発生後、ユーザーが指定した場所に同社が

声から生まれたサービス。いざというときに頼れる存在だ。

震災を経験した顧客の利用も可能だ。また、同社は備品の使用期限管理を行つた災害用備品を届けられる。もちろん災害用備品を届けられた災害用備品を選択。災害発生後、ユーザーが指定した場所に同社が